

文化通信

速報

発行所・(株)文化通信社 / 編集・発行人・渡邊裕二

平成29年10月13日(金) 第16692号

☆きょうのニュース

アシストのお手頃なDCP制作サービスマン人気拡大
ねこじやらしの「ジエクター」は100社以上に
DCP、クラウド事業で注目度上昇の2社に聞く

▽東野圭吾原作ミステリーを木村拓哉主演で映画化
東宝『マスカレード・ホテル』、2019年公開

▽『この世界の片隅に』支援、広島ファン増加に貢献
第3回JFCアワード、広島F.Cが最優秀賞受賞

▽東宝東和『パシフィック・リム』続編、4月公開

▽『午前十時の映画祭8』、黒澤作品で好調の出足

▽第9回船堀映画祭、『君の名は。』『この世界』など

▽池袋・新文芸坐、篠田正浩、岩下志麻特集開催

▽松竹『東京喰種』BD&DVDを12月20日発売

▽東映『ムーミン谷と〜』吹替の宮沢りえアフレコ取材

▽『アラヤシキの住人たち』、ポレポレ東中野で再上映

▽東映『マジンガーZ』石丸博也ら追加キャスト等発表

▽松竹、『松竹カレンダー2018』2種類で発売

▽『地球交響曲公開25周年記念 お祝いする会』11月3日に

▽中国で大ヒットのアニメ『西遊記』、1月13日公開

▽トランスF配給『アイリッシュ・グレイス』、28日公開

▽東京コミコン2017、カール・アーバンの来日発表

▽彩プロ『リングサイド〜』自称役者で割引キャンペ

▽VIPO他『この世界〜』のFC活動報告セミナー

▽鎌倉川喜多、特集「家こそ心の住まう場所」11月

訃報

藤岡早苗氏(藤岡秀次郎東映国際営業部上
席係長の母)



(株)文化通信社 URL:<http://www.bunkatsushin.com/>

■住所: 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-12-1 新有楽町ビル10階 ■電話: 03-3214-6041 ■ファックス: 03-3214-5466

■メール: info@bunkatsushin.com ■ツイッター: <https://twitter.com/bunkatsushin> ■フェイスブック: <http://www.facebook.com/bunkatsushin>

☆きょうのニュース

◎アシストのお手頃なDCP制作サービス人気拡大

ねこじやらしの「ジェクター」は100社以上に

DCP、クラウド事業で注目度上昇の2社に聞く

株式会社アシストが提供しているDCP（デジタルシネマパッケージ）制作サービスが、業界内で徐々に人気を拡大している。16年6月に本格的に開始すると、17年8月末までに約200タイトルで採用された。

同社技術統括本部の**小林玲王奈**統括本部長によると、「ほぼ宣伝をしていないにもかかわらず、口コミだけで問い合わせが増えている」という。公表している作品では、『キセキの葉書』や『淵に立つ』、『スプリング、ハズ、カム』、『ドラマ「鬼平外伝 最終章 四度目の女房」』など。「四度目の女房」は4K DCPで、丸の内ピカデリーでの完成披露上映会で使用された。間もなく開催される東京国際映画祭でも、同社でDCP化する作品が多数出品されており、現在急ピッチで作業を進めている。

人気の理由の一つは、そのお手頃な料金設定だ。2K DCPであれば、基本料金3万円＋変換料金（1分ごとに950円）という価格。割引にも応じており、95分程度の作品なら、10万円前後で提供している。これは、「大手の相場より、仕様によつては2分の1から3分の1」（小林氏）という安さだ。加えて、同社のDCP制作サービスの品質の高さも人気を後押ししている。サービスを始める前はエラーも多く見つかつたが、上映機材の販売会社に依頼し、サーバーへのインジェストチェックを相当数重ね、不安定な箇所を全て取り除いた上で提供を開始した。今では、他所で制作したDCPを、劇場に納品する前にアシストでチェックするサービスも始めている。

また、同社はHDD（ハードディスク）にコピーするだけでなく、株式会社ねこじやらしが提供するファイル共有サービス「ジェクター」を通じて、劇場にデータ送信で納品することも昨年から始めている。

ジェクターは映画本編の大容量ファイルの送信にも対応しており、アシストは、DCPファイルをジェクターにアップロードし、劇場の受信サーバーに送るシステムを整備。すでに、全国数館で公開する規模の作品や、予告編の映像で利用実績を重ねている。配給会社にとってはHDDにコピーするコストを省くことができ、アシストの提供する低価格のDCPサービスと併用することで、配給に係るコストの低減が可能となっている。

○優れたプレビュー機能「ジェクター」使用会社増加

大容量ファイル共有機能を持つねこじやらしの「ジェクター」だが、同サービスの最大の売りは、映像のプレビュー機能にある。

各種ファイルをアップロードすると、ジェクター上ですぐ視聴することが

ができる。受取側のソフト環境に依存しない点が大きなメリットで、具体的な例としては、「mov」や「wmv」、「m2ts」などの映像データはもとより、「psd」や「ai」などのデザインフォーマット、3Dファイルフォーマットでは「fbx」「obj」「stl」がジェクター上でプレビューできる。しかも、パソコン上だけでなく、スマートフォンなどの携帯端末でも見られるため、移動中でも手軽に確認することができる。ねこじやらしのクラウドストレージ事業部 **神田慧史** マネージャーによると、MXFなどの、編集前の大容量素材もアップロードできるため、「HDCAMで進めていた頃と同じようにマスターチェックができる。CM撮影後、すぐに映像をチェックしたいクリエイターやクライアントに重宝されている」という。

さらに、映像を確認するだけでなく、プレビュー画面にマークをし、コメントを残せるため、制作チーム内で細かな指示を共有することができ。セキュリティ面では、ログインに2段階認証を設け、指定したIPアドレス以外からのアクセス制限も可能。使用メンバーによって視聴できる範囲を個別に制限できるため、ファイルの情報漏えいのリスクも回避することができる。

ジェクターを稼働させ始めたのは2014年。利便性の良さから、この1年ほどで50社程度が新たに利用を開始。現在、東北新社、オムニバス・ジャパン、ヒューマックスシネマ、ポニーキャニオンエンタープライズ、東映シーエムなど、計110〜120社が使用している。まだ映画本編での利用は少ないが、現在上映中の映画『亜人』の制作をはじめ、Amazonプライムビデオのオリジナルコンテンツとして配信されている園子温監督の『東京ヴァンパイアホテル』（日活制作）は同サービスを利用しているという。VR映像（エクイレタングラー形式）にも対応しており、今後更なる利用増が見込まれる。1アカウントから利用が可能で、料金は、アカウント数、使用容量によって変動していくシステム。全社でジェクターを導入している企業では、1千ユーザ以上、100テラを割り、プライベート仕様で利用しているという。

○スマホで視聴可、DCPのプレビューサービス視野

今後ねこじやらしが「ジェクター」で目指す機能は、DCPのプレビューサービスだ（※アシストが劇場へのDCPファイル送信で利用しているのは、ファイル共有機能のみ）。現在、DCPを完成後に視聴するためには、試写室で鑑賞するか、有料の専用ソフトを使用する必要がある。しかし、ジェクターのプレビューサービスがDCPの視聴に対応すれば、お手頃な料金で、パソコンはもとより、スマートフォンでもチェックが可能となる。実現すれば、画期的なサービスとなる。まだ実装には改善が必要だが、DCP規格をベースにした放送用パッケージのIMFではプレビューすることができている。ねこじやらしの**川村ミサキ**代表取締役は「ジェクターは、世の中のあらゆるものをプレビューするという発想から生まれている。特にDCPのような需要の大きいものはやっていきたい」と構想を述べた。

了